

飯岡秀夫教授定年退職記念号発刊に寄せて

高崎経済大学経済学会会長 北 條 勇 作

飯岡秀夫先生は、昭和14年東京でお生まれになりました。平成17年3月31日をもちまして高崎経済大学経済学部をご定年になられ（65歳）、ご退職されます。このことを記念して、本学経済学会では、退職記念号（『高崎経済大学論集』第47巻第4号）を発刊します。先生は、昭和45年3月慶応義塾大学大学院経済学研究科博士課程を終えられ、同年4月本学に赴任・奉職されて以来、ちょうど35年の在職期間になります。この長きに亘り、本学ならびに本学会の発展のために寄与され多大なるご尽力・ご貢献をなされましたこと、誠に有難うございます。特記しますと、本学の学生部長、経済学部長、附属図書館長の要職を歴任されています。

先生の研究分野は、経済学史、社会思想史、近代思想史であり、特にジャン・ジャック・ルソーの経済論・文明論などの研究において独自の研究業績を残されており、学会活動は活発で、「経済学史学会」、「社会思想史学会」、「経済社会学会」、「日本経済思想史研究会」、「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」など多数の学会に所属され、幅広く活躍されています。著書・論文など多数執筆されていますが、ここでは主要研究業績の一端として単著3冊を紹介しておきます。『「民主制」の構想 ロック、ルソー、マルクス、ウェーバー』高文堂出版、1999。『ルソーの「文明論」 「再生」の行方』高文堂出版、2002。『ルソーの「経済論」 「本然」と「逸脱」』高文堂出版、2003。

先生の研究活動は、より具体的に示しますと次のようなものです。「近代における人間の運命やいかに」という問題意識・関心のもとに、長期間、ロック、ルソー、スミス、マルクス、ウェーバー等の学説研究をされてきており、また「西洋対東洋」にも関心を持たれ、安藤昌益、石田梅岩などの思想についても研究がなされています。そして今後はさらに、「モノ」と「ココロ」の関わりの問題意識から、フロイトやユングらの学説も探究して行きたいとしています。要するに、今日大変重要な課題となっている「持続可能な発展」という21世紀的イデーを「文明論」的視角から論究したいと考えておられます。飽くことなく研究して来られた先生の未だ衰えることのないその意欲には驚嘆するばかり

であり、後に続くわれわれのお手本になっていますし、また道標ともなってきました。私は、学問・研究に対する分野・視点が先生とはある程度相違していましたが、学問的なつながりは残念ながら深いものではありませんでしたが、研究をゆるがせにしない先生の学問研究の真摯な態度には厳しいものがあり、このように敬服することが度々ありました。

教育活動にも熱心で先生独自の観念があり、特筆すべきものがあると言えます。先生は、学生が「自分の鉞脈をほりあてる」ことができる教育を重視して、ゼミ生指導や講義を行なって来られました。「独立自尊」し、かつ心の中に燈台を灯し生存して行くことの貴重さを学生に伝達することを切に望まれながらこれまで一貫して教育活動をされて来ました。われわれにとっても大変参考になる教育観・教育方針と言えらると思います。

先生は穏和で優しく、誠実で責任感が強い方であることから誰からも慕われ愛されております。学問に対してもこのようなご性格のもと今後も先生は、前述したような野心的な研究テーマを中心として精力的に研究活動を続行していかれることと存じておりますが、どうかご健康には十分ご留意下さい。先生は、本質を捉えた厳しい研究で鍛錬された大変鋭い眼光と、包容力があり人間味のあるゆえに醸成される優しく心温まる眼差しを持ち、両者相俟って接する人達にこの上ない魅力となっており、そういった雰囲気の内面からほとばしり出ています。

われわれのために長い間ご指導・ご鞭撻下さいまして本当に有難うございました。ここに改めて先生がますます御健勝であられますことを祈念致しますとともに、また勝手ではございますが、今後もわれわれの大きな指針となつただくことを念願する次第であります。先生が幸多からんことを心から祈ります。